

単元例4 スイートポテトをおいしく作って、プレゼントしよう (小学部)

ステップ1 単元の構想(アイデア)

児童は、畑で育てたさつまいもの葉が大きくなったのを見て、収穫を楽しみにしている。収穫したさつまいもを使った活動を充実させるにはどうしたらよいだろう。



3年生の児童は、個性も実態も様々だが、みんなできて、どの児童も達成感もてるような単元にしたいな。

さつまいもの色や食感が残り、「自分たちのさつまいもで作った」ことが実感できる調理をしたい。



個々のねらいや活動の充実も図りたい。学年の活動を中心にしながら、児童の学習課題に応じたグループ活動も組み合わせたいな。

スイートポテトは、茹でてやわらかくなったいもを、つぶしてこねてまとめる、簡単な工程で作れそうだ。

買い物や、プレゼントを包む活動も取り入れよう。

買い物などの準備からスイートポテト作りまでを同じグループで活動することにして、グループ内の友達を意識できるようにしたい。

調理だけでなく、「お菓子を作ってプレゼントしよう」ということを目標にすると、さらに上手に作ろう、ほめてもらいたいという意欲が増すかも知れない。

以前、別の学習で作った作品を「パパ、ママにあげたい」と言う児童が多かったね。プレゼントの相手を家族にすると、意欲がより高まりそうだ。

さつまいもの収穫→調理→家の人へのプレゼントという、一連の流れのある単元をつくろう。

単元名「スイートポテトをおいしく作って、プレゼントしよう」

期待する児童の姿

- ・毎時間の学習を楽しみにし、次に何をすることが分かって進んで活動しようとする姿。
- ・自分のできることに自信をもって取り組む姿。

学年ごと、学級ごとにテーマや内容を分けて実施してきた「生活単元学習」を改め、到達目標を意識した単元の展開を図った実践事例です。

ステップ2 単元指導計画の作成

- 児童が単元テーマに沿った学校生活を送ることができるよう、時間割や実施形態を見直す。
- 繰り返し活動する時間や機会をできるだけ多く設定できるよう工夫する。

1 毎時間の生活単元学習を同じテーマで展開できるように、実施形態を見直した。

時間	月	火	水	木	金
1					
2					
3		学年			
4		学年	学級	学年	
5		学級		学級	

改善前：学年と学級の単元テーマが異なり、2つの単元が同時進行していた。

時間	月	火	水	木	金
1					
2					
3		学年			
4		学年	学年	学年	
5		学年		学年	

改善後：同じ単元テーマの下で、1週間の「生活単元学習」が流れるようにした。

2 主となる活動に繰り返し取り組むことができる指導計画を立案した。

スイートポテトをおいしく作って、プレゼントしよう (全14単位時間)	
活動内容	ねらい
さつまいもの収穫 (2単位時間)	・自分たちの栽培したさつまいもの収穫を喜び、サツマイモの大きさや感触などを味わう。 ・さつまいもの味やさつまいもを使った菓子や食べ物を知る。
調理の相談 (1単位時間)	・スイートポテトの作り方や必要な材料について話し合う。
スイートポテトづくり (9単位時間)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 1回目 (3単位時間) 買い物 (徒歩) (1単位時間) ↓ 調理 (2単位時間) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 2回目 (3単位時間) 買い物 (徒歩) (1単位時間) ↓ 調理 (手順表の活用) (2単位時間) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 3回目 (3単位時間) 買い物 (バス) (1単位時間) ↓ 調理 (役割の分担) (2単位時間) </div> </div> <p>※一連の流れを繰り返すことで活動の見通しをもち、自発的な行動や工夫を促す。 ※回を重ねるごとにねらいやテーマを変化させていく。</p>
プレゼントの準備 (2単位時間)	・家族にプレゼントすることで達成感や満足感を得る。

ステップ3 授業実践

～「自分たちでできること」を少しずつ広げていく展開の工夫～

さつまいもの収穫

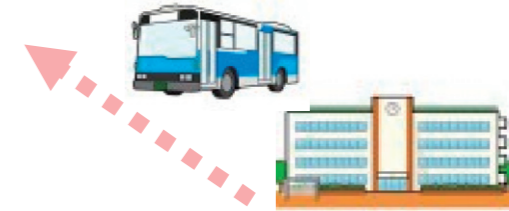


- * 1学期にさつまいもの苗を植え、毎日の水やりや鳥よけ作りなどを行いながら大切に育ててきました。たくさんできたさつまいもは、それぞれの児童の「できること」に合わせて収穫しました。
- * まずはふかしたさつまいもを味わい、「何を作ろうか」と話し合い、スイートポテトに決めました。

スイートポテトづくり(2回目、3回目)



- * 学校から少し離れた大きなスーパーで買い物をするため、バスで出かけました。「スイートポテトの材料をそろえる」ことが目的ですが、バスの乗り方や、交通ルールを守って歩くことの学習にもなりました。
- * メモを見ながら品物を探す係、買うもの確かめる係、会計の係を決めて、グループで買い物ができるようにしました。



スイートポテトづくり(1回目)



- * 作り方を確認し、グループに分かれて活動しました。道具の準備や材料の買い物なども、グループの中で係を分担して行いました。



- * 日頃からよく利用する学校の近くのお店で、材料の買い物をしました。



- * これまで行ったことがある「いもをつぶす」「つぶしたいもをもむ」など、児童が十分できる活動を中心にスイートポテト作りを体験しました。



- * 写真カードを見て、「今やること」を確かめながらスイートポテト作りを行いました。
- * 回数を重ねるごとに、教師が行っていた工程を児童自身が行えるようにしていきました。児童が行うことを少しずつ増やしていくことで、「もっとやりたい」「次はこれもやりたい」という気持ちをもたせることができました。



児童の生活を考慮し、これまで別々に行ってきた学年での生活単元学習と学級ごとの生活単元学習を、同じテーマで展開することで、単元テーマに沿って学習がスムーズに流れるようになりました。学校として、単元を意識した生活づくりに取り組むことができたことが、大きな成果です。

